

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 大原 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
<input type="checkbox"/> 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

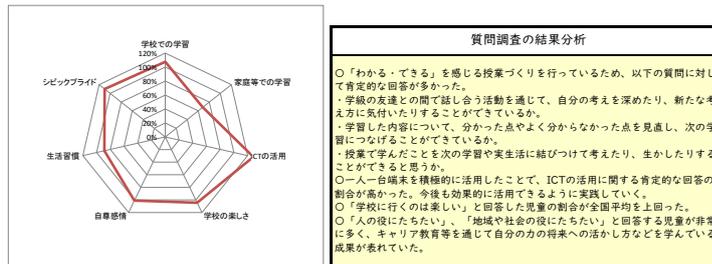
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に見ると、全国平均より下回っている。平均と同程度の主な内容は、[知識・技能]の「我が国の言語文化に関する事項」である。平均を下回っている主な内容は、[知識・技能]の「言葉の特徴や使い方に関する事項」と、[思考力・判断・表現力]の「書くこと」である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	[知識・技能]情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題。	
	努力が必要な問題	[知識・技能]文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に見ると、全国平均と同程度である。平均を上回っている領域は、[数と計算]と[変化と関係]で、平均と同程度の領域は[図形]、平均を下回っている領域は「データの活用」である。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	[変化と関係]速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題。 [数と計算]除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる問題。	
	努力が必要な問題	[図形]直方体の見取り図について理解し、かくことができるかどうかをみる問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

- 「わかる・できる」を感じる授業づくりを今後も継続していく。
- 教科において、基礎的な内容の定着をより一層図る為、今後もより丁寧な学習の取組を行う。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

- テレビ・ゲーム・スマートフォン等の使用時間が長い為、使用時間を改善する指導を行う。また、保護者にも伝え、改善の協力を求める。
- 地域やPTAとの協力・連携をより深め、地域や人を大切にしようとする児童の心情を育てる。